

SSH活動報告

3年生がオンライン発表会において課題研究の成果を披露しました 奈良県立青翔高等学校「サイエンス・ギャラリー」(7月26日)

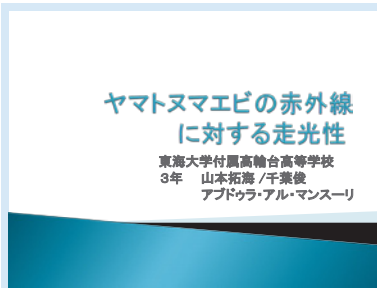


3年10組 林 晃一

今は新型コロナウイルス感染症が流行しているため、対面での発表会は減り、Zoomなどのオンラインプレゼンテーションシステムを用いた発表会が増えてきています。今回、初めて対面ではない発表会に出て、いっつか感じたことがあります。

まず一番大きなメリットとして、研究発表をネット上で見ることができるという点です。会場に行く必要がなく、自分の学校から発表会に参加することができるため、発表の機会が増えます。メリットがあるということは、当然デメリットもあります。それは、今回のZoom発表会ではあらかじめ録画した映像を流すのですが、映像が共有されなかったり、音声流れなかったり、不具合があったことです。これらのトラブルにより発表会の時間が大幅にズレてしまうこともあります。しかし、私はメリットのほうが圧倒的に大きいと感じています。対面ではない発表会が増えるといいのに、と私は思いました。

新潟県立新潟南高等学校「江風SSⅢ課題研究発表会」(7月28日)



3年10組 山本 拓海

Google Meetが使えない。そのアクシデントから新潟南との課題研究発表会は始まった。今回はいつもと違い、実際に目の前で発表するのではなくウェブプレゼンテーションアプリを使って東京と新潟をつないでのオンライン発表会だった。

オンラインで発表をしたことはなかったため、ジェスチャーなしで言いたいことが伝わるかなどが心配で緊張していた。しかし、いざ始まるというタイミングでGoogle Meetが使えなかった。セキュリティの問題で教員ネットワーク経由でないと使えなかったのだ。そのため職員室に移動したり、発表の順番が前後したりしたが、最後まで発表をすることができた。

反省点を挙げるとしたら、予想していなかった質問が来た時に、考えがまとまらないまま返答をしてしまったことだ。次回はその点を踏まえてより良い発表をしたいと思う。

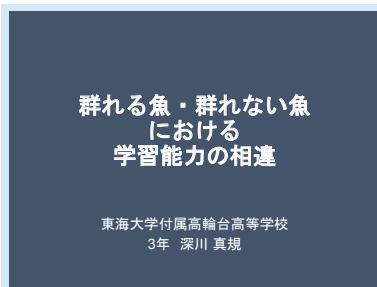
文部科学省・科学技術振興機構「SSH生徒研究発表会」(8月11日)



3年10組 阿島 里穂

オンラインでのSSH発表会に参加しました。本来であれば神戸でポスターセッションを行うはずでしたが、今回はインターネットを使いました。ポスターの前で説明をしている様子を撮影し、YouTubeにアップロードするのです。そのため普通の発表会と違い、何度でも発表を直すことができます。一度きりという制約がないので、発表は落ち着いてすることができます。また神戸に行かなくてもよいので、部活動の合間に発表することができました。このように手軽に発表会に参加できるのはオンラインの利点だと思います。ただ今回の発表会では質疑応答をすることがありませんでした。いつもなら少人数に向けて説明をするので、質問に答えるなどより詳しく話すことができるのですが、人と顔を合わせずカメラに向かってしゃべるだけでは伝わっているのかわかりません。やはり発表の楽しさややりがいは、オフラインに敵わないと感じました。しかし、貴重な経験ができたことには感謝しています。

慶應義塾大学先端生命科学研究所「高校生バイオサミット in 鶴岡」(8月24日~26日)



3年10組 深川 真規

私は今まで研究発表会では、聞き手の反応を見て興味を引き付けるように発表することを意識していました。確かに、例年通りの発表会のやり方であれば、面白いことを言えば聞き手は愛想笑いしてくれます。しかし今回は、事前に一人で録画したものをアップロードするので、面白いことを言っても目の前にあるのはパソコンで、パソコンは愛想笑いなど一切しません。そのため研究に興味を持って聞いてもらう工夫をするのが難しく、単調な発表になってしまい、発表者としてはやりにくさを感じました。

新型コロナウイルスが収束するまでは、研究発表会や学会もオンラインで行われると思うので、次回参加する研究発表会までに、今回の発表会で学んだことを踏まえてプレゼン技術を向上させていきたいと思っています。

●文部科学省による中間評価が発表

2017年度にSSHに指定された77校について、SSH企画評価会議協力者による中間評価が7月20日に公表されましたが、本校は総合評価において6段階中で上から2番目の「これまでの努力を継続することによって、研究開発のねらいの達成が可能と判断される」という評価を受けました。これは同期指定校の上位26パーセントに相当するもので、特にタイ王国との交流については国際的な共同研究を実施していることが高く評価されました。

一方で、全校的な探究活動の開始に伴って生じている課題を解決するために、教員の指導力向上を目的とした研修をいっそう充実させるべきだ、といった指摘もいただいております。引き続き教職員一丸となって研究開発を進めてまいりたいと思いますので、ご指導・ご鞭撻のほど、よろしく申し上げます。

